

食品中の放射性物質に関わる行政の調査結果及び関連情報
(9月3日に公表された情報)

1. 行政による放射性物質検査

福島第一原発事故が発生して以降、行政による検査が継続的におこなわれています。9月3日に公表された結果によると、229件(福島県は0件)の検査がおこなわれていました。基準を超えたものはありませんでした。(厚生労働省のホームページから報告されている放射性物質検査の結果の概略から)。以下特徴についてまとめています。

(1)検査について基準を超えたものについて
ありませんでした。

2. 検査結果について

(1)検査結果の概要

表1. 福島県で採取された沿岸魚の検査結果の傾向(2013年3月26日の検査結果とここ最近の検査結果の比較)

検査結果判明日	検出限界以下となった割合	基準は超えていないが、何らかの数値が検出された割合	基準を超えた割合
2013年3月26日	52.6%	41.4%	5.9%
2019年10月4日	100%	0.0%	0.0%
2019年10月11日	100%	0.0%	0.0%
2019年10月18日	100%	0.0%	0.0%
2019年10月25日	100%	0.0%	0.0%
2019年11月1日	100%	0.0%	0.0%
2019年11月15日	100%	0.0%	0.0%
2019年11月22日	100%	0.0%	0.0%
2019年12月6日	100%	0.0%	0.0%
2020年1月10日	100%	0.0%	0.0%
2020年1月31日	100%	0.0%	0.0%
2020年2月10日	100%	0.0%	0.0%
2020年2月21日	100%	0.0%	0.0%
2020年2月27日	100%	0.0%	0.0%
2020年4月13日	100%	0.0%	0.0%
2020年4月27日	100%	0.0%	0.0%
2020年6月12日	100%	0.49%	0.0%
2020年7月14日	100%	0.0%	0.0%

今回、福島沖の水産物(沿岸魚)の報告はありませんでした。

(2)京都の空間線量(8月24日～8月30日)

京都市の空間線量は(16.9メートル地点)1メートルの高さの推計値は0.055～0.056マイクロシーベルト/1時間となっています。福島市の空間線量は(2.5メートル地点)0.13マイクロシーベルト/1時間となっています。

3. 関連情報

(1)トリチウムなど含む水の処分方法 早急に決定を 自民党が提言 (NHK NEWSWEB)

東日本大震災からの復興に向け自民党は、東京電力福島第一原子力発電所で増え続けるトリチウムなどを含む水の処分方法を早急に決定し、継続して風評被害対策に取り組むよう政府に求める提言をまとめました。自民党の「東日本大震災復興加速化本部」が27日まとめた提言では、福島第一原発のタンクにたまり続けているトリチウムなど放射性物質を含む水について、「タンクの増設に限界がきており、これ以上、方針の決定を先送りできない状態だ」と指摘しています。そのうえで政府に対し、処分方法を早急に決定するとともに、継続して風評被害対策に取り組むよう求めています。

また、福島県沿岸部の活性化に向けて、最先端技術の国際的な研究拠点を新たに設けて、原発の廃炉をはじ

め、ロボット開発や農業の効率化に向けた研究などを進め、新たな産業の創出につなげるべきだとしています。
自民党は、公明党と調整したうえで、来週にも安倍総理大臣に提言を提出することとしています。 以上